

カルメル

霊性センターニュース



フラ・アンジェリコ画 「天使の告知」

2021年9月

378号

9月号 【教会からの巻頭のことば】

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ12章21節)

(『福音の喜び』20 第一章 I. 出向いて行く教会)

「神のことばには、神が信じる者たちに呼び起こそうとしている「行け」という原動力がつねに現れています。アブラハムは新しい土地へと出ていくようにという呼びかけを受け入れました(創世記12.1-3)。モーセも「行きなさい。私はあなたを使わず」(出エジプト記3.10)という神の呼びかけを聞いて、民を約束の地に導きました(出エジプト記3.17参照)。神はエレミヤに言います。「わたしがあなたを、だれのところへ遣わそうとも、行け」(エレミヤ1.7)。今日、イエスの命じる「行きなさい」という言葉は、教会の宣教の常に新たにされる現場と挑戦を示しています。皆が、宣教のこの新しい「出発」に招かれています」



目次

教会からの巻頭の言葉	1
目次	2
心の泉	3
カルメル会の企画案内	25
東京	26
京都	30
キリスト教放送局 FEBC のご案内	32
諸所の企画案内	33
郵送お申込みのご案内	38
あとがき	39

心の泉



宇治カルメル会修道院



第三巻

第四十二章 人間から平和を期待してはならない

1 主

《子よ、もしあなたが、その人と気が合うから、あるいは親しくつきあっているから、その人から平和を受けられると期待するなら、あなたは動揺し、さまざまな心配にあうであろう。それに反して、永遠に生きている真理の神から平和を求めるなら、友人に見捨てられても、死に別れても、悲嘆に沈むことはない。友人への愛も私にもとづくべきものであり、この世で、徳があるように見える人を愛する時も、その愛は私のために愛するものでなくてはならない。私がいなければ、友情にも価値がなく、永続的なものにはなり得ない。私に結ばれていない友情は、真実なものではなく、清いものでもない。あなたは、私に結ばれない愛をもたないで、人間との交際をすべて避けたいと思うほどにならなければならない。人は、神に近づけば近づくほど、人間からの慰めを求めなくなる。また、深くへりくだり、自分を卑しいと考えれば考えるほど、神に高く上げられるのである。》

2 被造物のさまたげ

何かの善を自分に帰する者は、神からの恵みが下るのをさまたげている。聖霊の恵みは、謙遜な心だけを探しているからである。もしあなたが、完全に自我を脱ぎ捨て、その心から地上のものへの束縛を断つなら、私は豊かな恵みをもって、あなたの内に下らざるを得なくなる。しかし、あなたが被造物に心を向ける時には、もう創造主を見ることができない。神への愛のために自分に勝つように、どのような場合にも努力しなさい。そうすれば、神を知ることができる。どんなに小さいものでも、それを過度に愛し求めるなら、最高の善に達するのが遅れ、霊魂を汚すようになる。》

第四十三章 空しい世俗の知識

1 主

《子よ、どんなに巧妙でも、人間の言葉に左右されるな。実に「神の国は、言葉ではなく実質にある」(一コリント 4・20)、心を燃やし、知恵を照らし、罪の痛悔を起し、さまざまな慰めを与える私のことばを聞きなさい。学者だ、知恵者だ、と言われたいために読書をしてはならない。むしろ、悪の根絶に努めなさい。それは、いろいろな難問を解くよりも、あなたにとって益のあることである。》

2 師はただ一人

あなたが、研究の後に知識を得たら、初心に立ち戻りなさい。「人間に知識を与え」(詩編 94・10)、どんな人間の教えもかなわないほど、子どもの知恵をさえ開くのは私である。私が語りかける人間はすぐ知恵者になり、急速に霊的進歩をとげるであろう。この世の新奇なことを知りたがって、神に奉仕する道を求めようとしない人間は、不幸な者である。師の師、天使の主であるキリストが、すべての人間の知識を知り、おのおのの良心を調べるためにあらわれる日がいつか来るであろう。その時には、エルサレムのすみずみまで松明をもって見回り(ゼファニア 1・12 参照)、闇に隠れている秘密はすべてあらわれ(一コリント 4・5 参照)、世の知恵者は、もはや弁解の言葉を返せないであろう。

2021 聖ヨセフ年—9 ヨセフ 祈りの人



聖ヨセフの肩にもたれて眠る幼子イエス



眠っている聖ヨセフ

教皇フランシスコの机の上には、あまり見かけない「眠っている聖ヨセフ」の像が置いてあります。

「聖ヨセフは眠りながら教会を守っています。

そうです、彼にはこれができるのです。私たちはそれを知っています。*

問題や困難がある時に、私は紙切れにそれを書いて、その聖ヨセフの像の下に置きます。それを夢見てもらうためです。

彼にその問題のために祈ってもらうためです。」（フィリピンでの家族たちとの集いで）

長期に及んでいるコロナ禍、にもかかわらず再開されたオリンピック、続くパラリンピック開催予定、ますます強化するウイルスとの戦い、加えて台風・大雨予報、被害など・・・様々な問題・困難に日々緊張を強いられる生活が続いています。全世界の教会のために尽くされている教皇様の「教会の守護者聖ヨセフ」への信頼を、私たちも受け継ぎたいものです。

「私は世の終わりまであなたがたと共にいる」と言われたキリストの養父への信頼のうちに、日々の不安、緊張を強いられる状況の中でも信仰の絆で結ばれていることを思い起こし、教会の守護者ヨセフの執り成しをともに願いましよう。

伊従信子

ノートルダム・ド・ヴィ

* マタイ1・20 ヨセフひそかにマリアとの離縁を考える、2・13 エジプトへ逃げなさい

2・19 イスラエルへ行きなさい、 2・22 ユダヤでなく、ガリラヤ地方に行く(ナザレ)

創造主への賛美（45）

九^{のり}里 彰

私の後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、私に従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、私のため、また福音のために命を失う者は、それを救うのである。（マルコ 8・34-35）

キリストの後に従うためには、無一物とならなくてはならない。最初の弟子たちも、「すべてを捨ててイエスに従った」わけであるが、マルコ福音書（1・16-20）には、そのことがきわめて象徴的に描かれている。網を打っていたシモンとシモンの兄弟アンデレに、イエスが「私について来なさい。人間をとる漁師にしよう」と呼びかけると、彼らはすぐに「網」を捨てて従った。またその後、船の中で網の手入れをしているヤコブとその兄弟ヨハネに呼びかけると、彼らは「父ゼベダイを雇い人たちと一緒に舟に残して」イエスの後に従った。

「網」は漁師にとっては、漁をするための道具であり、命の次に大切な物だろう。それによって自分や家族を養っているのだから。それゆえ、これを捨てるということは、漁師の身分を捨てることを意味している。つまり、「網」は職業の象徴なのである。さらに、「父ゼベダイ」は自分の家族や親族を、「雇い人たち」は仕事仲間や友人を、そして「舟」は家財産を象徴していると取ることができる。

要するに、この世の物や地位や人や富からの離脱であり、それはまた、それらのものを第一とするこの世の価値観からの離脱ともなるはずであった。「金持ちの青年」のエピソードの後半で、ペトロはイエスに、「このとおり、私たちは何もかも捨ててあなたに従って参りました」（マルコ 10・28）と言うが、それはまさにその通りであった。だが、その少し後のエピソード（同 10・35-45）から、外面的に無一物となっただけで、内面的にはこの世の価値観から自由になっていなかったことが分かる。つまり、彼もまた他の使徒たちと同じように、イエスが王座に着いたあかつきには（マタイ 20・21）、弟子たちの中でナンバーワンになろうとしていたからである。

そこで、「自分を捨てて」、イエスに従うことが求められてくるのである。自分を捨てていなければ、本当はまだ従っていないのである。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (160)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

私たちが訪ねるとのことです⑦

他のところでは、彼（ヨハネ・エヴァンヘリスタ）は、「このような神への信頼から、彼（十字架のヨハネ）がいた修道院では、小麦とか何かの施しを乞いに出ることを、彼は許可しませんでした」と述べている。

アルカラの総会——それに聖人も出席していたが——の会憲では、次のように命じられていることが指摘されるべきである。「同様に、私たちの管区には、門や街頭で施しを、畑で小麦を乞い願う修道者がいないように。修道院にもたらされる施しは、娯楽となるようものではなく、感謝の心をもって受け取られるべきである。あらゆる熱心さをもって、清貧の誓願に従い、生活を支える助けとなる手仕事をするように。

そしてある修道院、あるいはいくつかの修道院で十分な貯えがなく、施しを乞わなければ、手の施しようがないほどのひどい窮乏状態に陥ることが起きたならば、その時は、その修道院の説教師か院長が指名した最古参の修道士が、神父か高潔な信徒を伴い、村や町へ行き、通りで施しを乞い、目的を達したならば、すばやく修道院にもどるように。畑に穀物を乞いに行ってはならない。もしも私たちの会の敬虔な信徒のだれかが、その町の修道院のために施しを乞う仕事を担当してくれるならば、それがもっとも適当な方法であろう。私たちは、可能な限り迅速に以上のことに努めねばならない、修道院の院長たちの自覚にゆだねる」。

十字架のヨハネ自身の言葉でまとめるならば、『警戒の教え』の世に対する第二の警戒から、次のように言うことができるだろう。

「…この世の物（邦訳では「物質的利益」）について、…この種の害から真に解放され、過度の欲求を抑制するためには、所有行為をいっさい嫌って、これについて——食物についてであろうと、衣服や何か他の物についてであろうと、明日の日についてであろうと——まったく心を労してはならない。あなたは、この心遣いを、もっと気高いもの、すなわち、神の国を探求することに向けねばならない。それは、神に対して欠けることがないためであって、それ以外のことは、主が言われるように、みな加えて与えられるであろう（マタ 6・33）。なぜならば、動物の上にも心をかけられるお方は、あなたを忘れることはないからである」。

(P. 九里訳)

年間 第23主日 (B)

(マルコ7：31－37)

イエスはその人に向かって、「エッフアタ」(「開け」)と言われた。

本日のマルコによる福音書では、人々が、耳が聞こえず舌が回らない人を連れて来て、その上に手を置いてくださるようにとイエスに願いました。するとイエスによる耳の聞こえない人の癒しが実現するのです。

当時、身体的な病気や障害は当人が罪深いしるしだと思われていたため、ユダヤ人は、そんな罪人たちを神から見捨てられた自業自得の人として扱いました。しかしいつくしみ深い救い主イエスは、痛悔した人や病人を癒し、罪人をゆるし、打ちひしがれた人を解放し、貧しい人により知らせをもたらすために、この世に来られました。イエスは、耳の聞こえない人が恥ずかしい思いをしないように配慮し、群衆の中から連れ出してから、指をその人の両耳に入れ、唾をつけてその舌に触れ、天を仰いで深く息をつきます。そして「エッフアタ！」(「開け」)と言われます。この奇跡は、洗礼の秘跡を思い起こさせます。洗礼では、私たちが神のみことばに耳を傾けて他者にのべ伝えるようと、司祭が私たちの耳と口に触れます。つまり、「よい知らせ」を分かち合うのです。

耳の聞こえない人は、身体障害を癒されただけでなく、霊的な目覚めを体験しました。彼は、イエスの愛の癒しの力によって完全に変容されます。イエスは、誰にもこのことを話してはいけないと人々を口止めしましたが、人々はかえってあらゆる人に言い広めました。この神の愛の癒しの力は、今日でも私たち一人ひとりの人生の中で働いています。悲しみが喜びに変わる時、病が健康に変わる時、死がいのちになる時、私たちの弱さは強さへと変えられます。耳の聞こえない人は、癒された後に神の力の証し人となりました。同じように、私たちは、今日の福音を通して、驚くべき神の愛に心を開くようにと招かれています。私たちの内で働く聖霊の働きに心を開いていきましょう。神のみことばを聞くために耳をすませ、神の愛のよい知らせと救いを皆と分かち合おうではありませんか。

(Sr. Paulina)

年間 第24主日

(マルコ8：27-35)

今日のみことばは、イエスが弟子たちとフィリポ・カイサリア地方の村々に出かけた途中の出来事が語られています。「イエスとは一体どの様な方なのか、何者であるのか。」イエスは人々に神の国のことについて語られ、病人を癒され、パンや魚を増やす御業を行なっておられたので、イエスのことはこの地方の人びとに知れ渡っていたでしょう。イエスが誰であるか人々の関心も大いにあり、救い主メシアに先立つ人物として考えていた人たちもいた様です。言うまでもなく弟子たちの大きな関心事だったことでしょう。

「人々は、わたしのことを何者だと言っているか。」とイエスは弟子たちに尋ねます。洗礼者ヨハネ、エリヤ、預言者の1人…と弟子たちは答えますが、それは人々の考え。そこで弟子たちに「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか」と問います。ペトロは「あなたは、メシアです。」と救い主であることを答え、イエスはご自分の事をそのことを誰にも話さない様にと言われます。

イエスが誰であるか「メシア」ということを答えたペトロ、本当の意味で理解をしていたかといえ、そうではありませんでした。イエスが必ず多くの苦しみを受けること、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目の後に復活することを教え始められ、はっきりお話しになると、弟子であるペトロが師であるイエスを諫め始めるという行動に出て、イエスから叱られることになります。

ペトロが、すなわち弟子たちが期待していたのは、自分たちの国が外国人に支配されているという現状を変えて下さる、そこから解放する現世的な力強いメシアであり、人々もこのように思い期待していたのでしょう。しかし神がお考えになられたメシアはそうではありません、地上的なこの世的な勝利者、救い主ではなかったわけです。

イエスは群衆と弟子たちに言われました。「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」と。十字架の道を歩むご自分に従い、それぞれ自分の十字架を背負ってついてくる様に、人々にお話しになられたのですね。

神の子とされた私たち。私たちの歩みはイエスに従う歩み、自分の十字架を背負ってイエスとともに歩む歩みです。父なる神への信頼のうちに、イエスへの信頼のうちに、神の愛により頼み、神の愛のうちに歩むことができます様に。

(Fr. 古川利雅)

年間 第25主日

(マルコ9 : 30 - 37)

本日の福音は、イエス様のように他者への奉仕に自分の生命を受け渡し神のみ旨をおこなうことで、神の御目に偉くなるように、私たちに招いています。子供のような謙虚さ、そして愛に満ちた無私の奉仕は、神の御目には人を偉くします。

福音に、イエス様はガリラヤを回って旅をした後カファルナウムに戻り、群衆を避けて弟子たちに教えたとあります。イエス様はご自分の受難と死を預言します。弟子たちはそれを聞いて落胆しました。彼らは強力な力をもってこの世の王国を立ち上げる政治的なメシアを夢みていたからです。そこで弟子たちの間に誰が一番偉いかという論争がおこりました。彼らはより偉い地位を望んでいたのです。

本日の福音の二つ目の部分には、イエスがカファルナウムに戻り、そこで弟子たちに真に偉いとはどういうことかを示したと記されています。イエスは弟子たちが自分の自己的望みを超えて神の目的を悟るように望まれたのです。イエスは、謙虚に愛深く人々に仕える人が一番偉いのだと言われます。もっと明確に説明するために、イエスは「召使いと子供」の例を出します。真に偉いことは、仲間たちへの愛深い奉仕であり、自己中心的ではありません。思いやりと犠牲的な愛をもって他者を助けることです。社会や、家族、あるいは教会における役割が何であっても、私たちは他者への愛をこめた奉仕を行うように呼ばれています。

イエス様は、「このような子供の一人を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである」と子供を例に示されます。子供を例に出すことで、イエスはまた、他者に奉仕するときには一番小さいものに仕えるように気をつけなければならないと示しています。キリスト者は社会的に地位のない人、即ちホームレスの人、罪人、病人、貧しい人、コロナ・ウイルス感染者、悩んでいる人、等々を親切に扱わなければならないということを意味しています。私たちはその人が貧しくても富んでいても、友人であっても敵であっても、神の子供である全ての人に、愛をもって奉仕しなければなりません。

子供を喜び迎え入れるということは、一番弱い人間も愛をこめて受け入れ、お返しは何も期待しないということを意味しています。キリストはそのような人々のところに来て、私たちが彼らに奉仕すると神に奉仕しているのだということを教えられたのです。

(Sr. Paulina)

年間 第26主日

(マルコ9：38-43、45、47-48)

「もし片方の手があなたをつまづかせるなら、切り捨てててしまいなさい。」
「もし片方の足があなたをつまづかせるなら、切り捨てててしまいなさい。」
「もし片方の目があなたをつまづかせるなら、えぐり出しなさい。」

両方がそろったまま地獄に投げ込まれるよりは、片方になってでも神の国に入る方がよいからである、とイエスは教えられます。非常に強烈な、しかし、もっともな教えだと思えます。

みかんの箱の中に腐ったみかんが見つかったら、誰でもそのみかんを取り除いて捨てるでしょう。そうしないと他のみかんも腐ってしまうからです。私たちの場合も、全体が腐ってしまう前に早めに腐った部分を切り捨てることで救われるのだと思えます。

もちろん、文字どおり、手、足、目を切り捨ててはなりません。たとえ話の上手なイエス様は、私たちの救いのためにあえて強烈な表現で語るのです。

私たちの腐敗する部分、それは心です。そして、心に基づいて行動する生き方です。壊疽でも起きない限り体は腐敗しません。しかし、心や生き方は簡単に腐敗します。イエス様は、神の国の福音を解き、私たちを腐敗から解放し、永遠の命に導いてくださいました。人間は、終わることのない、とこしえの命の輝きを生きるために創造されたからです。

イエスは、私たちの心の中の目、心の中の手、心の中の足が腐敗した場合、早く切り捨てよと警告しているのです。放っておくと、本当に私たちの目は見てはならないものを見たり、触れてはならないものに触れたり、行ってはならない所に行ったりして、行動や生き方が腐敗していきます。

第二朗読の使徒ヤコブの手紙は富んでいる人たちにこう警告しています。「あなたがたは、地上でぜいたくに暮らして、快樂にふけり、屠られる日に備え、自分の心を太らせた」(5・5)。「このさびこそが、あなたがたの罪の証拠となり、あなたがたの肉を火のように食い尽くすでしょう。あなたがたは、この終わりの時のために宝を蓄えたのでした」(5・3)。もちろん、富んでいる人々皆が腐敗するわけではありませんし、富んでいなくても腐敗する人はいます。

日々、良心の糾明を大切にし、腐ってきたら早く切り捨て、その傷口に、罪人を赦すために来られたイエス様の薬を塗っていただきましょう。私たちの心がいつも神を求め、神の喜ぶことを行い、生活が福音的になっていくことで、私たちは永遠の命の喜びを生きるのです。信仰、希望、愛、この三つはいつまでも残ります(1コリント13・13)。その中でも最も大いなるものである愛を生きることによって、神の国を目指しましょう。

(今泉健 神父)

いのちの言葉 9月

いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、
すべての人に仕える者になりなさい。

(マルコ 9.35)

イエスと共にカファルナウムに向かう道中、弟子たちの間でさかんに議論が交わされていました。しかし、イエスが「途中、何を話していたのか？」と尋ねると、弟子たちは黙し何も答えることが出来ませんでした。多分、恥ずかしかったからでしょう。なぜなら、彼らは、自分たちの中で誰が一番偉いかと議論していたからです。

イエスは、ご自分が受ける苦難について弟子たちに語られました。しかし、ペトロや他の弟子たちにとってそれを理解するのはむずかしく、受け入れがたいことでした。事実、弟子たちは、イエスの死と復活を経験してはじめて、「愛のために命を捧げる神の子」であるイエスの本当の姿を知ることになります。

イエスは、そんな弟子たちをご自分の傍に呼び寄せ、彼らが真の弟子となれるよう助け、どんな人が「福音的に最も偉い者」であるかを示されます。

いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり
全ての人に仕えるものになりなさい。

弱く、臆病な弟子たちにもかかわらず、イエスは、彼らを信頼し、ご自分に従うよう呼ばれます。そして、「すべての人に仕えるという使命」を彼らに託されます。ここで思い起こすのは、聖パウロがフィリピの信徒たちに書いた手紙です。「何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい。互いにこのことを心掛けなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです」1とあります。

奴隷のように強いられてではなく、自由な人として自分が持っている力や才能を用いて、差別や偏見なしに助けを必要としているすべての人のために仕える人の姿です。

この言葉は、今日の私たちへの招きでもあるでしょう。心を開いて相手が何を必要としているかを察し助け、真の人間関係を築くために積極的に行動すること。自分の才能をみんなの利益のために使い、失敗してもやり直すこと。自分を最後に置くことによってすべての人と、唯一、希望ある未来である「普遍的兄弟愛」を築いていくことへの招きです。

いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり
全ての人に仕えるものになりなさい。

では、このみ言葉をどう実行できるでしょうか。キアラ・ルービックは語ります。「イエスと共に私たちも、さまざまな機会に、すべての人の後になるよう心がけましょう。重要な任務を任されても、なにか『偉い者』になったかのように思わないでください。傲慢や思い上がり、心にはいりこむ余地を与えないことです。一番大切なことは、隣人を愛すること。これをいつも心に留めましょう。

隣人の役にたてるなら、そのようなチャンスも活用しましょう。と同時に、日々の何気ないこともおろそかにしないで下さい。例えば、人との関わり、家事や両親のお手伝い、あるいは、家庭内に平和と調和を保つこと、子ども達の教育などもそうです。

どんな時にも、キリスト教とは愛すること、特に弱い人への愛を忘れないでください。このようにして、私たちの人生は、世に「神のみ国」を築いていくものとなるでしょう。

こうした努力に対して、イエスは、健康や豊かさ、さらにその他すべてのものを与えてくださると約束されました。他の人々とこれらを分かち合うために与えてくださるのです。神様は、このように、私たちをして『神のみ摂理をもたらす腕』にしてくださいませ。」²

いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり
全ての人に仕えるものになりなさい。

みんなの共通の家である地球を大切に守ることは、現代社会において大変タイムリーなことで、世界中の多くの人々と共に働くことができます。諸キリスト教会にあっても共通の関心事であり、多くの教会で、今年9月は「被造物を大切にすると世界祈願日」として被造物を大切にすると日が10月4日まで継続されます。

その折に、テゼ共同体は、次のような祈りを提案して下さいました。「愛である神様、あなたの御前にいる私たちが、あなたの限りない慈しみによって創造され、生み出されたすべてのものの計り知れない美しさを私たちに悟らせてください。そして、私たちがすべての人、すべての被造物に深く心に留める者として下さいませるように。私たちがすべてのものに価値を見出せる者となり、人類家族に平和をもたらす者としてください。」³

いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり
全ての人に仕えるものになりなさい。

レティツィア・マグリ

¹ フィリピの信徒への手紙 2. 3-5

² キアラ・ルービック いのちの言葉 1985年9月

³ https://www.taize.fr/it_article24642.html 参照

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

◀ Communications (時事通信) ▶

2021年6月24日

跣足カルメル在世会のパトリック ディビトリ博士の作品 アビラの聖テレジアの神秘的生活の回想曲“カンタータ カルメリタ”



パトリック・ディビトリ博士は、跣足カルメル在世会のメンバーで、教会の司牧評議員、薬剤師認定制度認証機構ACPEのスピリチュアルケアの心理療法士、哲学と神学の教授、音楽家、作曲家、作家であり、家庭を持つ人です。彼は、アメリカのバージニア州マナナス市にあるファミリーライフ協会の取締役でもあります。そして何よりも、彼は常に生活の中心に神のみ旨を行うことを一番にしています。彼の意図する音楽作品は、愛と神の栄光を表し、それに役立つために創作されています。

パトリック・ディビトリ博士は、“カンタータ カルメリタ”の作者です。彼が作詞・作曲した声楽曲“カンタータ カルメリタ”は、多様な物事の種々の型との一致、それらを繋ぐ媒体である愛についての回想となっています。愛は、単に良きものとの一致への憧れにとどまらず、何によりも人の内面的な完全性を形成し、人を神と他者に繋ぐ力とみなされています。この個人的な内面の完全性は善徳から得られ、個人の特性を養います。そうやって初めて、人は自由意志で自分自身を最愛のものと神に差し出し、気高く尊厳に値するとされるそれらのものに奉げます。

このカンタータは、個々人が愛について神と話し、神との一致を望む歌詞で始まり、終わります。一番の歌詞は、神のようになりたいと望み良いことのために一人で悪に立ち向かおうとする若者についてです。二番の歌詞は、アビラの聖テレジアについてで、同様の立場をとりますが聖女は一人ではありません。この二人は同じ目標をもつことで一致し、神の愛のために悪に立ち向かい、他の人々にもそのように勇気づけます。この目標を達成するために、両者は自分たちのすべてのいのちを神のみ旨と、神への愛に捧げて生きるよう決心します。

(翻訳：小宮山延子)

糸巻き棒からペンへ(67)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

しかし、テレジアは、直接、権威ある人々と交渉し、恩人たちから同意を得、家を買ひ、工事を指揮し……。これらのことは、女性が男性たちの判断に従うことなく行動することを許そうとしなかった当時の人々の反発を引き起こしました。彼女自身、出会った反対について思いめぐらしながら、そのことを認めています。「かれらは皆、ただの女が大胆不敵にも自分たちの意志に反して修道院を創立したというので、あきれはてていました」(『創立史』15・11)。

聖女と個人的に関わった人々の大半は、彼女の友となり、その事業を支えることになりました。けれども、彼女は、多くの影響力のある人々が、その時代には、女性には拒否されていた自由をもって、修道女が修道院を出歩き、創立したり、著述することを受け入れませんでした。したがって、彼女は、援助を求めて動かざるを得なかったのです。「奥様が、私の外出に賛成する発言をされる機会を持たれたことは、うれしいことです。確かにそれは、人生において私をとて疲れさせることの一つであり、私にとって最大の仕事です。特に悪く見なされるのに気づく時は、…これらの事柄の中で主が奉仕されているのを見る時は、すべてが私には些細なものとなります」(手紙 76,10)。

ほとんどすべての人々が、女性は男性に従わなければならないと主張したため、ある時期には、創立事業に対して、彼女の中にもためらいの心が生じてきます。特に、長上たち(聴罪司祭、管区長、司教)は神の代理者であるにもかかわらず、彼女の事業にもっとも反対している人々のように思われたからです。教皇大使が彼女を次のように見なしていたことは、皆知っていました。「落ち着きのない放浪癖のある、不従順で反抗的な女。彼女は、信心という名目で、悪い教えを考え出し、トリエント公会議や高位聖職者の命令に反し、修道院の外を歩き回り、聖パウロが女性は教えるならならぬと訓示しているのに逆らい、教師のように教えている」。ある時期には、ピオ 5 世さえも、アビラの司教に、母テレジアが他の修道院を創立したり、すでに創立された修道院を訪問するために、修道院を離れることをもはや許さないよう求める手紙を書いたほどでした。

(P.九里訳)



2021年 夏号 No.381

信仰生活(再)入門(13) 聖書に学ぶ祈りの道(5)
 —聖ヨセフとともに② 片山はるひ
 道の靈性(6)—聖テレーズの愛の道に学ぶ 田畑邦治
 ルルドの聖母のほほ笑みとベルナデッタ 伊従信子
 念祷(心の祈り) ポーリン・フェルナンデス
 キリストの説かれた 幸いなる道(2) 九里 彰
 靈的研究会講義録(12)—聖書・祈り・愛について 奥村一郎



2020年 特集号

「すべてのいのちを守るため」
 —フランシスコ教皇のメッセージ—
 神の愛といのちの福音を次世代に 松田 浩一
 教皇フランシスコの説く「平和への道」 九里 彰
 司牧者のかがみ 教皇フランシスコ 今泉 健
 教皇フランシスコならではの視点と光 大瀬 高司
 —寄留者の尊厳

ご案内 1冊 520円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他ににてお求め下さい

- 送付ご希望の方は、700円【520円 (+送料 180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい
- 年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特集号 計 3,500円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

※2021年度より料金が変わります(1冊 580円 年間購読 3,600円)

- お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

書籍案内



『パンデミック後の選択』

著者：教皇フランシスコ

判型：四六・並製

ページ数：80 ページ

価格：本体 500 円（税込 550 円）

ISBN：978-4-87750-224-9

出版社：カトリック中央協議会

無関心のグローバリゼーションは、わたしたちをその歩みにおいて危険にさらし挑発し続けます。どうかわたしたちが、正義と愛と連帯という必須の抗体を見いだせますように。

COVID-19 という人類の危機から生まれうる、貧しい人、弱い立場にある人を中心にした、新しい世界を築くための手掛かり。

カトリック中央協議会

バチカン出版局より刊行された Life After the Pandemic の邦訳。パンデミックに言及する 8 つの文書を収録。高い感染リスクにさらされながらも他者に献身する人々や、収入が絶たれたり、在宅要請を守るのが難しかったりする弱い立場の人々に心を寄せつつ、困難な試練を新しい選択への好機に変えるよう励ます。単にパンデミック以前を取り戻すのではなく、連帯を示し、もっとも傷つきやすい人を中心にした社会を構築すべきとの呼びかけ。

目次・内容

- 序（マイケル・ツァーニー枢機卿, SJ）
- なぜ怖がるのか（特別な祈りの式におけるウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020年3月27日、サンピエトロ大聖堂前にて）
- コロナ後への備えの重要性（ロベルト・アンドレス・ガラルド氏あて書簡、2020年3月28日付）
- 新たな炎のように（2020年復活祭ウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020年4月12日、サンピエトロ大聖堂にて）
- 目立たぬ兵士たち（草の根市民運動あて書簡、2020年4月12日付）
- 再起計画（雑誌 Vida Nueva（新しい生）への書き下ろし、2020年4月17日）
- エゴイズム——より悪質なウイルス（復活節第二主日（神のいつくしみの主日）説教抜粋、2020年4月19日、サントスピリト・イン・サッシア教会にて）
- ストリートペーパー関係者へ（2020年4月21日付書簡）
- 地球規模の問題を乗り越える（第50回アースデイについての一般謁見講話抜粋、2020年4月22日）
- 付録（マリアへの祈り一、二）
- あとがき

新書紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていくます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジア・ヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音書(1)
- 第2章 福音書(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギヤ
- 第10章 英知と(空)

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花知
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。





書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

2020年のご案内

年間テーマ 手をとりあい、白ら歩み出す



大瀬高司 師

好評の2019年の連載「カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎」に引き続き大瀬高司神父の新連載が始まります。

●近代日本の歩みとカトリック教会
——山本信次郎研究ノートより
大瀬高司（カルメル修道会司祭）

山本信次郎研究で得られた成果から、近代日本のカトリック教会での出来事や人物を取り上げ、これまであまり知られていないエピソードを中心に紹介します。

その他の新連載

- アンジェラスの鐘／加藤美紀（教育学者）
- 知恵ある者たちのアフォリズム／加藤久美子（聖書学者）
- かたわらに、今、たたずんで／大野高志（日本基督教団牧師）
- 聖歌と賛歌——民衆霊性と多様性から
杉本ゆり（中世教会音楽研究者）
- 新米神父の開拓奮闘記／大西勇史（広島教区司祭）
- いのちの交わりの場——エコロジカルな暮らしのために
吉川まみ（環境学者）

継続連載

- 典札暦と季節の味わい（応用編）
柳谷晃子（食文化研究所主宰）



月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

- 口座番号：00170-2-84745
- 加入者名：オリエンズ宗教研究所
- ご購読料：7500円（税・送料込）
- 備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年11回、8・9月合併号）7500円（税・送料込）一部定価600円＋税

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5
Tel 03-3322-7601 Fax 03-3325-5322 <https://www.oriens.or.jp/>



福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】**287**

**第2版
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

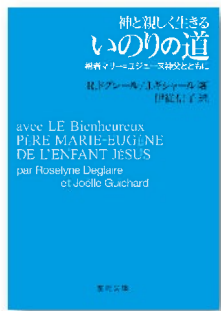
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】**246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

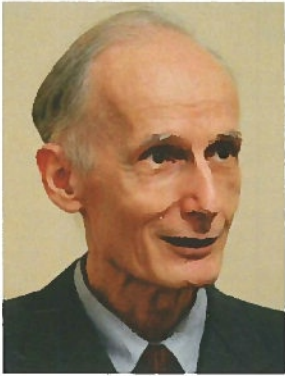
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】**268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>



奥村一郎選集

追悼 奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも **本体 2000 円**+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻



慈悲と隣人愛 解説・西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。カトリックから禅へ／小事と瑣事／禅とキリスト教における靈的修行

第2巻



多文化に生きる宗教 解説・橋本裕明

宗教対話と霊性交流から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。大いなる贈け——宗教対話／日本人とキリスト教——遠藤文学の魂

第3巻



日本の神学を求めて 解説・小野寺 功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。日本の神学——根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」／新しい旋

第4巻



日本語とキリスト教 解説・阿部仲麻呂

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ／聖書と翻訳

第5巻



現代人と宗教 解説・鶴岡賀雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っているのか。現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／「新しい人」としての真人

第6巻



永遠のいのち 解説・八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛——人間の栄光と悲慘を見極め、永遠のいのちへの道を探る。嬰兒復帰／人間の栄光と悲慘／神は死せり／十字架の秘義／人間と世界と神

第7巻



カルメルの霊性 解説・高園泰子

愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。アビラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレーズと東洋的霊性

第8巻



神に向かう〈祈り〉 解説・高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。考える祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者／祈りとは何か？

第9巻



奉獻の道 解説・宮本久雄

すべての人にみずからを与えつくす奉獻生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。清らかな矛盾／世を変えるパン種として／清貧の誓願／現代に生きる修道者の霊性

カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院(黙想)** **
(2021年~)

- ・祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【クリスマス】

12月24日(金)~25日(土) 朝食《講話なし、夕食なし》

- ・聖書深読黙想会(土曜日17時~日曜日16時) 大瀬高司 神父

10月 2日(土)~ 3日(日) 2022年

11月27日(土)~28日(日) 1月 8日(土)~ 9日(日)

3月12日(土)~13日(日)

- ・《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》(水曜日10時~16時・昼食付) カルメル会士

9月22日 10月20日 11月17日 12月15日

2022年 1月19日 2月16日 3月16日

- ・一泊黙想会 (土曜日17時~日曜日16時) カルメル会士

9月25日(土)~26日(日) 2022年

11月20日(土)~21日(日) 1月29日(土)~30日(日)

3月19日(土)~20日(日)

- ・奉獻生活者のための黙想会 (初日17時~最終日朝食) カルメル会士

12月27日(月)~1月 5日(水)

- ・青年黙想会(男女) 35歳まで(初日16時~翌日16時) カルメル会士

2022年 3月25日(金)~27日(日)

- ・召命黙想会(男女)40歳まで(初日16時~翌日16時) カルメル会士

11月 5日(金)~7日(日)

- ・カルメル会召命黙想会(対象男子) (土曜日16時~日曜日16時)カルメル会士

10月 9日(土)~10日(日) 2022年

12月11日(土)~12日(日) 2月26日(土)~27日(日)

- ・特別黙想会(初日 20時～最終日 16時) Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)
11月12日(金)～14日(日)
- ・キリスト教霊性入門(10時～16時 昼食付) 松田浩一神父
7月8日(木)



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール : mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>



★★★カルメル会召命黙想会★★★

カルメル会の靈性を生きることとおして教会に生涯を奉げる道があります。聖テレジアや十字架の聖ヨハネらの教えに培われて、人々に祈りと兄弟的な生活を証ししていく道です。この道に関心を抱き、心に神の呼びかけを感じている方のお手伝いをさせていただきたいと思ひます。

指導：カルメル会士

対象：カルメル会の召命に関心のある男子

場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

日時：2021年 4月10日（土）～11日（日） 16時～翌日16時

6月12日（土）～13日（日） //

10月9日（土）～10日（日） //

12月11日（土）～12日（日） //

2022年 2月26日（土）～27日（日） //

会費：¥5000（3食付き）

*お問合せ お申し込み：

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL.03-5706-7355 FAX.03-3704-1789

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp



カルメル召命黙想会

イエスの愛



日時：2021年11月5日（金）16時～7日（日）16時

場所：カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

対象：召命を考えている、独身の青年男女（40歳まで）

定員：8名

費用：一般 10,000円 学生 5,000円

締切：2021年10月29日（金）

指導：カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

電話：03（5706）7355

FAX：03（3704）1789

E-mail：mokusou@carmel-monastery.jp



宇治カルメル会 黙想会案内 (2021 年度)

京都の緊急事態宣言に伴い、教区の決定により、現在
9/10までの黙想会をお断りさせて頂いております。
今後の状況により変更される場合があります。

【一般のための黙想】 中川博道神父
1泊2日（土曜午後5時～日曜午後4時）
5:30 サルヴェ・レジーナ(修道院)から開始
9/18～19 10/30～31

【聖書深読】（午前10時～午後4時）中川博道神父
9/4 **中止** 10/2 11/6 12/18

【水曜黙想会】（第3水曜日）（午前10時～午後4時）
9/15 10/20 11/17 12/15
（11/17 カルメル宣教修道女会 Sr. ロサ）
他すべて 中川博道神父

【カルメルの霊性】（午後5時～午後4時）中川博道神父

幼きテレジア 10/2（土）～3（日）
十字架の聖ヨハネ 12/11（土）～12（日）

【奉献生活者の黙想】（午後5時～午前9時）一般可
9/20（月）～29（水） 中川博道神父
11/8（月）～17（水） 中川博道神父
12/27（月）～1/5（水） 中川博道神父

【待降節黙想会】（午後5時～午後4時）中川博道神父
12/4（土）～5（日）

【祭日のミサに参加するために】

*<聖週間を祈る>

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
聖木曜日から復活祭まで通してどの曜日からでも参加可。(講話なし 食事つき)

*<クリスマス>

12/24~25

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
(講話なし 食事つき)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時~午後5時の間をお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

キリスト教放送局

FEBBC

2021.4~2021.9

2021年春夏 番組案内

AMラジオ放送

AM1566kHz 毎夜9:30~

〈全国放送〉

インターネット放送

www.febcjp.com 〈毎日更新〉

日

夜9:30~

全地よ主を ほめたたえよ

主日礼拝取材番組

- [第1] 日キ教会 高知旭教会
- [第2] 日基教団 石動教会
4~6月
- [第3] 日基教団 久万教会
- [第4] 日基教団 小岩教会
7~9月
- [第3] ホーリーネス教団
東京中央教会
- [第4] 日基教団
中標津伝道所
- [第5] 各地の教会

[第2~5] 夜10:27~
**神からの
メッセージ**
グレゴリオ聖歌
橋本周子
聖グレゴリオの家
宗教音楽研究所 所長



月

[月~金] 夜9:30~


FEBBC TODAY - 今日の聖書・今週の讃美歌 -

恵子の郵便ポスト

FEBBCメインパーソナリティー
吉崎恵子

夜9:47~

幸福宣言
一主イエスの
山上の説教に聴く
竹森満佐一
日本基督教団元教師



夜9:47~

**嘆きに応える
神の御言**
金田聖治
日キ教会
上田教会 牧師



夜9:47~

Session
一イエスのTune
合わせて
早矢仕宗伯
「NCAM-イエスの風」牧師
塩谷達也 コスベル
長倉崇宣 シンガー



火




水

木

金

土

夜9:30~
**海二と恵子の
ピタミンK(再)**
大竹海二
日本長老教会
中部中会巡回教師
吉崎恵子
夜9:53~
**Kishikoの
ひとりじゃ
ないから**
夜10:04~
[第1~3] **コーヒー
ブレイク・
インタビュー**
インタビュー
吉崎恵子・長倉崇宣
[第4~5] 夜10:04~
交わりのことば
一祈りの旅路
夜10:31~
黙想のとき(再)
主よ、共に宿りませ
安保ふみ江

[第1] 夜9:37~
**イエスとの
対話の旅**
一現代霊性神学講座
中川博道 カトリック
カルメル会宇治修道院司祭



[第1] 夜10:25~
外からの「声」
一FEBBC HANGOUT!
夜10:47~
新
アークライブ



[第3~4] 夜9:37~
新
**生きているとは、
キリスト**
小林和夫 ホーリーネス
東京聖書学院教会 牧師



[第3~4] 夜10:20~
**Meguの
CCM insight**



日

月

水

木

金

土

日

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山 2021年 — 祈りの集いのご案内

「祈りの実り：イエス様と共に、 イエス様のように生きること」

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

- 1月14日 柔和な師イエスに習う(マタイ11・29)
2月11日 謙遜な師イエスに習う(マタイ11・29)
3月11日 十字架を背負っているイエス様に従う(ルカ14・27)
4月 8日 神の国でキリストと共に食事の席に着く(ルカ22・30)
5月14日 給仕するイエス様に学ぶ(ルカ22・27)
6月10日 「私があなたがたを愛したように…互いに愛し合いなさい」
(ヨハネ14・34)
7月 8日 祈るイエス様に習う(ルカ11・1)
* * *
9月 9日 「病気や患いを癒された」イエスの模範に従う(マタイ4・24)
10月14日 「福音を宣べ伝えた」イエスの模範に従う(マタイ4・24)
11月11日 ナインの母親を見て、憐れに思ったイエスと共に(ルカ7)
12月 9日 「行って…場所を用意したら、戻って来て、あなたがたを
私のもとに迎える」(ヨハネ14・3)



※個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

tel:0968-85-3100

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を
当会のHPに掲載いたしますので、
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
仙台・福島 フォローアップ	9/17(金)9:00- 18(土)18:00 *前泊、継続宿泊、 通いも可	Fr マル コ・アント ニオ Fr 植栗	ラ・サール会仙台修 道院 (仙台市宮城野区)	菅野(すがの) 由美子 Tel 090-1737-6651 peche901@yahoo.co.jp
仙台・福島 サダナ I	9/19(日)9:00- 20(月・祝)16:00	Fr 植栗	同上	同上
静岡サダナ	10/9(土)9:00- 11(月)15:00 *通いも可	Fr 植栗	静岡サレジオ高等学 校 (静岡市清水区)	来間(くるま) 裕美子※ 090-5325-2518 sadhana12378@yahoo. co.jp
名古屋入門 A	10/17(日) 9:30-17:00	Fr 植栗	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暁子 050-7108-7410 ngosdn@gmail.
入門 A	10/24(日) 9:30-17:00	Fr 植栗	★ニコラバレ修道院	来間(くるま) 裕美子※
名古屋入門 B	11/14(日) 9:30-17:00	Fr 植栗	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暁子
広島サダナ I&アドハンス	11/20(土)17:30- 23(火・祝)16:00 *通いも可	Fr 植栗	西日本霊性センター (広島市安佐南区)	西日本霊性センター受付 デスク 082-239-0034
入門 B	11/28(日) 9:30-17:00	Fr 植栗	★ニコラバレ修道院	来間(くるま) 裕美子※

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

★会場が変更になる可能性があります。

●入門 C への参加…入門 A または入門 B を終えていること。

●フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナ I を終えていること。



念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日

14:00～16:00(講話と念祷)

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

中止のお知らせ

2021年度予定

予定しておりました「念祷の集い」は教区よりの指示により、当分の間中止となりました。再開については、再度紙面にてお知らせ致します。

*「祈りの集い」のスタッフの一人、山藤誠司さんがご病気になられました。
主キリストが彼の心と体を支えてくださるよう、みなさまのお祈りをお願いいたします。

連絡先：篠原 三恵子

Tel:042-473-6287

e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号~12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。

また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。

その場合は、「献金」とご記入お願い致します。

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき . . . つぶやき . . .

この夏、パンデミックの中、感染対策を講じながら、奉献者のための長い黙想会を数回担当させていただきました。これらを経て、秋風を感じながら、この間、通奏低音のように響いていた“課題”があらためて迫ってきます。

それは、「出向いて行く教会」(『福音の喜び』20)という課題です。昨年3月コロナ禍第一波の中で、教皇フランシスコが祈りの集いにおいて告げられた、イエスの「向こう岸に渡ろう」(マルコ 4. 35~41)の呼びかけに端を発し、やがて、聖書のライトモチーフである「脱出」につながりながら、思いめぐらしつづけてきた課題です。

「脱出」の呼びかけは、聖書の歴史の発端であるアブラハムから始まります。

「あなたは生まれ故郷／父の家を離れて／わたしが示す地に行きなさい。

…地上の氏族はすべて／あなたによって祝福に入る。」(創世記 12. 1-3)

今から4000年ほど前、アブラハムが主の勧めに従って離れ、出発した生まれ故郷「カルディアのウル」は、メソポタミア文明の中心的な商業都市であり、その当時の最先端の科学技術を誇る洗練された都市国家でした。その世界も、文明の発展ゆえの問題性をはらんでいたといわれます。科学技術が発展していくことは、物事を分解し、分析し、最小単位をより正確にとらえながら、統合していく歩みと言えます。それは、インテグラルな現実を見失い、部分的なものを肥大化させ、それに捕らわれて、神格化さえしていきかねない文明の持つ問題性です。カルディアのウルは、偶像の立ち並ぶ、熟した文明世界の問題性を抱えていたとみなされています(参照: アディン・シュタインザルツ『聖書の人間像』第二章「アブラハム 信仰の再生者」)。

聖書が告げるもう一つの脱出、モーセによって導き出される「エジプト」も、当時すでに長い歴史を誇る洗練された文明の地でした。

「今日、人類史の新しい時代が始まっており、深刻で急激な変革」(『現代世界憲章』4)の時代をわたしたちは生きています。それは、産業革命以来、発展を遂げつづけてきた科学技術に支えられる文明世界で、更に急激な発展が予告されています。しかし、これらは同時に、地球が存亡をかけた悲鳴を上げ、人類の未来を危うくする問題性を生み出しつづけています。『ラウダート・シ』(4章:参照)が警告するように、地球上の「あらゆるものは密接に関係しあっている」現実を見つめ直し、インテグラルなエコロジーを実践しながら、「持続可能な世界の発展」を探し求め、文明の持つ問題性から脱出していくことが急務です。

アブラハムから始まる聖書は、最初から、文明の持っている“問題性から脱出して、神が示す祝福された地に行くための書”であるといえます。それは、二十一世紀のわたしたちへの喫緊のメッセージです。

現代、この脱出を導くのは、わたしたちの兄弟となってくださったイエスです。イエスのように隣人を大切に、物事を握りしめずに分かち合い、イエスのように御父に聴き入りながら共に生きることにこそ、人類が文明の持つ問題性から脱出して、

「愛の文明」「ケアの文化」を土台とした祝福された世界を築いていくための「道・真理・いのち」があるのです。(Fr. 中川博道 o. c. d.)

